

別記様式(第5条関係)



平成 29 年 4 月 28 日

南国市議会議長

西岡 照夫 様

議員名 神崎 隆代

平成 28 年度政務活動費収支報告について

南国市議会政務活動費の交付に関する条例第5条第1項に基づき、別記様式・その2  
のとおり平成 28 年度政務活動費収支報告書を提出します。

政務活動費収支報告書

議員名 神 崎 隆 代

平成 2 8 年 度 政 務 活 動 費 収 支 報 告 書

1 収 入

政務活動費 120,000 円

2 支 出

(単位 円)

科 目	金 額	備 考
調 査 研 究 費		
研 修 費	98,804	
広 報 費		
広 聴 費		
要 請 ・ 陳 情 活 動 費		
会 議 費		
資 料 作 成 費		
資 料 購 入 費	2,721	
人 件 費		
事 務 所 費		
合 計	101,525	

3 残 額 18,475 円

(注) ・備考欄には、主たる支出の内訳を記載する。

・旅費の額は、南国市議会議員の議員報酬等に関する条例（平成20年南国市条例第21号）の規定に準じ算定する。



政務活動記録簿

議員名 神崎隆代

整理番号	1	項目	1. 調査研究費 4. 広聴費		2. 研修費	3. 広報費 6. 会議費	
年月日	平成28年4月14日(木)～平成28年4月15日(金)						
相手方・調査先等	JIAM 全国市町村国際文化研修所						
場所	滋賀県大津市唐崎2丁目13番1号						
活動内容等(目的、内容、結果、所感等を記入)	<p>第1回市町村議会議員特別セミナー(講演)</p> <p>○養父市「国家戦略特区」における事業の進捗、課題と今後の展開について 講師：兵庫県養父市長 広瀬 栄 氏</p> <p>○「神山プロジェクト」～創造的過疎から考える地方創生～ 講師：特定非営利活動法人グリーンパレー理事長 大南 信也 氏</p> <p>○高校の魅力化×地域の活性化 地域との協働による高校改革を考える 講師：株式会社Prima Pinguino代表取締役 藤岡 慎二 氏</p> <p>○地方創生の課題と成功する地域の条件 講師：一般財団法人地域活性化センター理事長 椎川 忍 氏</p> <p>人口減少、高齢化が進む中、地方創生、地域活性化をめざし、他市ではどのような取り組みがなされているのかを学ぶため参加をした。規制緩和による改革に取り組み、画一化からの脱却という戦略で地域変革を目指している養父市。雇用がない！仕事がない！という課題から、町の将来にとって必要と思われる「働き手」「起業家」を逆指名するという画期的な手法で移住者を呼び込み、地域内経済循環による地方創生モデルをつくっている「神山プロジェクト」。地域を活かした学びの創出から魅力ある高校を生みだし、生徒数増から地域活性化へとつながっている事例など。どれも素晴らしい取り組みであると感じた。南国市に照らし合わせてこれらの取り組みをどのように活かすことができるのかさらに考えていく必要があると思った。</p>						
	行き先	利用交通機関	積算	金額(円)			
	後免駅～唐崎	JR、湖西線	往復券	20,430			
	研修参加経費	研修費、宿泊費、食費		7,300			
	日当	1,000(4/14分) 1,000(4/15分)		2,000			
	その他						
	合 計			29,730			
備考							

## 政 務 活 動 記 録 簿

議員名 神 崎 隆 代

整理 番号	2	項目	1. 調査研究費 ②. 研修費 3. 広報費 4. 広聴費 5. 要請・陳情活動費 6. 会議費	
年月日	平成 29 年 2 月 5 日 (日) ~ 平成 29 年 2 月 6 日 (月)			
相手方・ 調査先等	研修会「地方議員研究会」(主催: 地方議員研究会)			
場 所	東京都中央区八丁堀 1-9-8 八重洲通りハタビル アットビジネスセンター			
活動内容 等(目的、 内容、結 果、所感等 を記入)	<p>○わがまちで地域包括ケアを実現するためには ○人口減少社会における持続可能な医療・介護を考える 講師: 城西大学経営学部 教授 伊関 友伸 氏</p> <p>これからの少子高齢化社会を乗り越えていくためにも地域包括ケア体制の整備は重要である。それには医療も介護も必要不可欠である。このことから、今後先々までを考えて「持続可能な医療・介護」とは、講師はどのように考えているのか興味があり、南国市にとって参考になることがあればと思い参加した。内容は、どこの自治体でもかかえている現実を再確認するにとどまったように感じた。その中でも、地域包括ケアの最終的責任者はだれか、という問いかけには考えさせられた。講師は、キーワードは「連携」であるといっている。多くの高齢者を少ない医療・介護の資源でケアしなければならないことから、「連携」して高齢者を支えることが重要となるということ。結論的には、地域包括ケアは、その推進に積極的に取り組んでいかなければ何も進んでいけないということ。地道に積み上げていくしかないということであった。</p>			
	行き先	利用交通機関	積算	金額(円)
	龍馬空港~羽田 空港	航空機(パック)		33,800
	羽田空港~東京 駅	モノレール、JR山 手線	637×2(往復)	1,274
	研修参加費			30,000
	宿泊費			
	日 当	2,000×2		4,000
	その他			
	合 計			69,074
備 考				

※活動内容等について、スペースが足りないときは、別途報告書を添付してください。